学生・教職員のみなさんへ

生成 AI の利用について

2023.4.24

高崎健康福祉大学
学長　石田朋靖

ChatGPT や Bing など生成系人工知能（以下、生成 AI）の性能が加速度的に高まるなか、その利用が爆発的に拡大しています。まだ多くの限界があるとはいえ、今後、新しいツールとして人間の活動を補助し、社会に大きな変革をもたらす可能性があります。

例えば、生成 AI では以下のような作業にも対応が可能となっています。

① 与えたキーワードやデータなどを元にした様々な形式の文章生成（俳句や小説、論文まで！）
② 既存の文章や Web ページなどの要約、翻訳、校正
③ 試験（穴埋め問題、選択問題、自由記述問題など）の作成や解答（医師国家試験に合格点！）
④ プレゼンテーションの作成
⑤ ブレインストーミング、アイデア出し
⑥ エクセルなどと連動したデータ分析
⑦ プログラミング
⑧ 作詞や作曲
⑨ 地元食材をつかったダイエット料理のレシピ　　などなど

とはいえ、生成 AI は現在までのところ自ら新しいものを生み出すわけではなく、インターネット上の膨大なデータを使い、そのつながりの確率や文脈等を考えながら成果を生成するものであり、利用の際には主に以下の事項を留意しなければなりません。

① インターネット上の情報は正しいものばかりではないので、生成したものには矛盾や間違いが含まれることもある。
② 入力した質問事項やその記載内容がシステムに蓄積・学習されて利用されるため、個人情報あるいは組織情報の流出・漏えいにつながる可能性がある。
③ 生成したものが著作権侵害となる可能性がある。
④ AI の高度化が作業の迅速化や合理化、内容の深化につながる反面、それにかかわる人間が失業するといった社会問題も生み出しかねない。

こうした多くの課題があるとはいえ、学生が社会に出たときには使いこなすことが必須なツールになると想定されます。また大学教育においても、例えば対話形式によって自らの考えを検証し、学習内容の理解をすすめ知識・技術の習得内容を確実にするなど、自らの能力を高めるために利用することは可能です。したがって、大学としては単に使用を制限するのではなく、以下の点に留意しながら、学びの場にふさわしい使い方をする必要があります。

① 大学教育においては、授業等で得た情報を自分の頭の中で処理・思考し、他者が理解できるよう表現するというプロセスをとおして、論理的かつ客観的な思考力や表現力を養うことが最も

重要な目標です。学生の皆さんは、自ら学び、自ら考え、自らの言葉で表現する努力を惜しまないでください。

② 生成ＡＩの出力をそのままレポートや課題、学位論文等として利用することは、自身の成長の機会を放棄することになるばかりか、倫理上の問題さらには剽窃（カンニング）や著作権侵害などの不正行為として処罰されることもあります。

③ 教員は単に生成ＡＩの利用を単に禁止するのではなく、利用場面や利用方法などを明確に指示するとともに、課題内容や試験とその評価方法について工夫する必要があります。

④ 授業関係での利用については、学生の皆さんは授業の担当教員の指示に従ってください。

本内容は現時点での状況に基づくもので、更新が必要となる可能性があることにご留意ください。